【抄録原稿の書き方】

１．　抄録原稿サイズについて

原稿はA4サイズ用紙１枚で、上余白25mm、下余白30mm、左右余白20mmに設定してください。

２．　本文の文字数について

原稿は全角2000文字(1行25文字×80行、2段組）以内です。厳守してください。

３．　原稿の体裁について

原稿には、目的・方法・結果・考察などの小見出しを付けてください。

小見出しは左寄せとし、その両端には【　】をつけて囲み、後は必ず改行してください。

また、原稿はそのまま製版されますので、厳密に校正してください。

４．　図表などについて

図表などは本文の最後のところ 12 行分（300字）相当のスペースに１点となります。注）抄録に掲載される原稿は白黒での印刷となります。図表などは必ず白黒で鮮明になるよう作成してください。

５．　個人情報保護について

抄録は学会誌掲載の他、記念誌等に編成される場合がございます。発表及び抄録作成については倫理的配慮及び個人情報取り扱いに際して十分ご注意いただきますようお願い申し上げます。この点について演題提出時、確認させていただく場合があります。

抄録原稿締め切りは平成22年10月22日(金)です。(期限厳守でお願いします)

高位頚髄損傷患者に対し早期より作業療法を行った経験

島根太郎[1]・石見銀子（MD）・大和しじみ[2]

[1]日本海病院

[2]神話の国リハビリテーションセンター

【はじめに】

この度、高位頚髄損傷患者を受傷後早期より作業療法を行い、経験をもとに症例検討を行ったので報告する。

【症例紹介】

20代男性　頚髄完全損傷、損傷レベルC4。

20XX年○月交通外傷により受傷。・・・・

【経過】

受傷後○○日よりベッドサイドにて作業療法開始。・・・・・・・・・・・・・・・・・・

×××××××××××××××××××××。

△△△△△△△△△△△△△△△△△△△△。

□■□■□■□■□■□■□■□■□■□■□。

☆★☆★☆★☆★☆★☆★☆★☆★

△△△△△△△△△△△△△△△△△△△△。

□■□■□■□■□■□■□■□■□■□■□。

【考察】

☆★☆★☆★☆★☆★☆★☆★☆★

【まとめ】

高位頚髄損傷患者を受傷後早期より作業療法を行い、経験をもとに症例検討を行った。

○○○○・・・・・・・・・・・・。

sample

文字は 25 文字×80 行以内
（図表使用の場合は 68 行以内）

図表用のスペース
25 文字×12 行分
300 文字に相当
縦 65mm×横 82mm